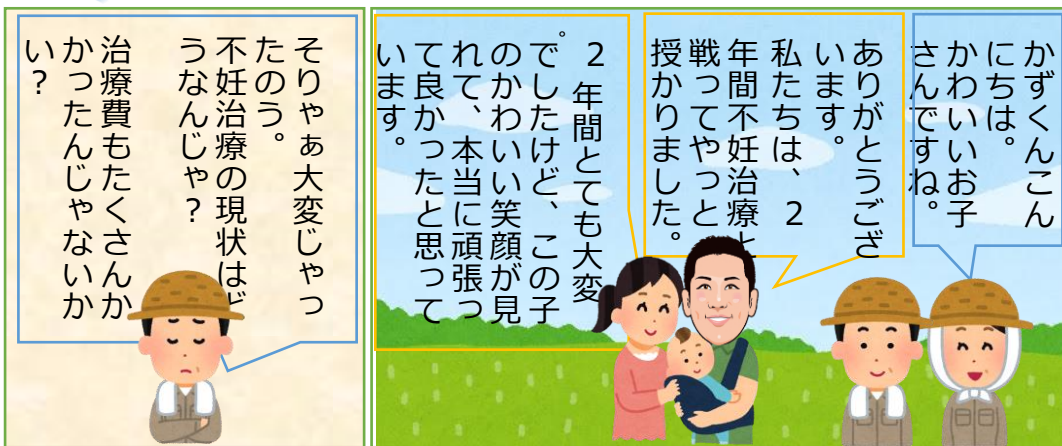


教えて! 不妊治療の現状と課題



日本では何らかの不妊治療を受けたことがある(または現在受けている)夫婦の割合は5・5組に1組だそうです。

不妊は、今や特別な人の課題ではなく、身近なものであるといえます。

その原因としては晩婚化などが考えられます。

私たちは、体外受精1回、顕微授精2回の治療で150万程度かかりました。どちらも保険適用外です。そこで国の制度を使った県の特定不妊治療費助成制度を活用し、1回につき7万15万円の助成金をいただきましたが、とても賄えない問題点としてまずあげられるのが、治療を行う人の負担の大きさです。経済的な負担、治療と仕事の両立などです。

市のご理解をいただき、30年度から市独自の山武市特定不妊治療費助成事業が始まりました。いくつか条件がありますが県の助成額を引いた残りの2分の1を助成するものです。(10万円上限)

少しでも治療を行う人達の負担を軽減できれば、少子化対策にもなるわね。

これから頑張つてね!

そこで、私は29年第3回定例会の代表質問で、県の助成金に市単独で上乗せ助成金を出していただくようお願いしました。

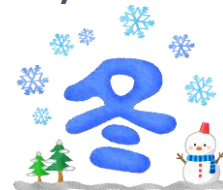
石川和久



TIMES

Kazuhisa Ishikawa
Sammu city Report

Vol,3・2019



山武市議会議員

石川和久

さんむ医療センターが移転
するって知ってる??





さんむ医療センター建替整備基本計画が明らかに

現在の病院施設は、老朽化及び狭小化、駐車場の狭さ、また、南棟の耐震性の不足等、施設面の問題があり、十分な医療サービスの提供が困難になってきています。医療・保健・介護を検診から在宅までを含めて、三位一体で切れ目なく地域住民に提供し、安心して暮らすことが出来る環境を整備するため、施設整備及び移転を検討してきました。候補地は市立なるとうこども園南側の敷地約3万4800㎡。2019・20年度で設計・施工者を選定、21・22年度の建設を経て23年度開院を目指す。新病院は5階建て程度を想定し、運営規模は許可病床312床から大幅減の199床とし診療科目は現在と同じ18科目です。

概算事業費は約95億3000万円（税込み）

既存病院の解体工事6億円、病院本体工事60億8600万円、土地購入・造成・外構工事など7億3800万円
設計・工事監理・調査・測量など5億600万円
医療機器・什器備品・情報システム15億円
開院準備1億円。

財源内訳 病院事業債87億9500万円
一般財源7億3500万円

※今後の計画により変更になる可能性があります。

※さんむ医療センター建替整備基本計画（素案）に基づいて作成しています。

石川 和久事務所

事務所：〒289-1313 山武市上横地1020-3

Tel:0475-51-4803 公式ホームページ

HP:ishi-kazu.com

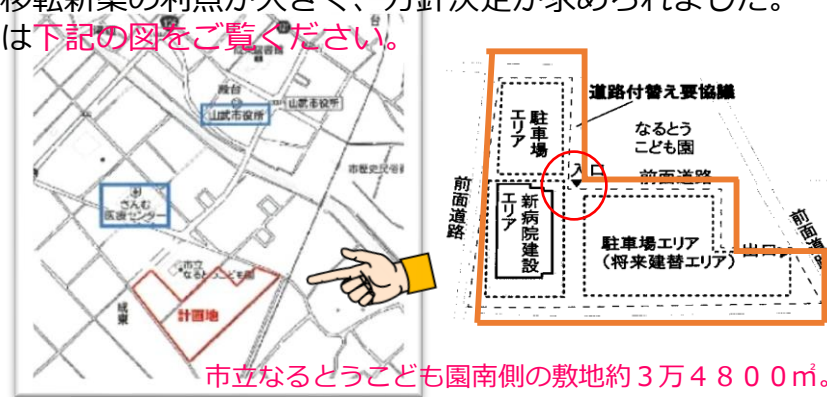
石川和久



老朽化などによる建て替えは分かったけど、今の場所では無理なの？
なるとうこども園南側ってどの辺なんだい？



現況敷地内建て替え、移転建て替え、南棟耐震補強など比較検討を行った結果、借地の問題や、病院が抱える施設面の課題を解消するためには移転新築の利点が大きく、方針決定が求められました。移転場所は下記の図をご覧ください。



市立なるとうこども園南側の敷地約3万4800㎡。

95億3000万円かあ～ 凄い金額だねー。市は大丈夫なのかね？



計画によると、事業費は用途によって異なりますが、交付税措置（国補助金）が17%～25%、残りが原則さんむ医療センターが50%、山武市が50%負担となります。概算ですが、約39億円が市の負担となります。

- ・市の財政計画通りの返済
- ・事業費を増額しない建設計画
- ・今後も安定した病院経営

求められます

- ・1979年6月1日生まれ（40歳）
- ・平成27年、35歳で初当選
- ・平成31年、2期目当選
- ・山武市議会副議長
- ・経済建設常任委員

